

祝!熊本市政令指定都市記念!

# 「語り座」本公演

歴史がたり

## 蛇の目と九曜

加藤清正と細川忠興

戦国の世を乗り越えた男たちの縁(えにし)と  
その妻“かな”と“ガラシャ”の愛あればこそその物語が、  
寿咲亜似の語りとバロック音楽で蘇る!



高杉 稔



桑路ススム



藤川いずみ



春日保人



春日万里子

日 時 ◎2012年 4月28日(土)

午後の部 13:30開場/14:00開演

前座/肥後の民話あれこれ

夜の部 18:00開場/18:30開演

第一部 創作民話講談 ~本邦初公開  
「あわて者の本妙寺参り」

場 所 ◎くまもと森都心プラザホール(熊本駅前)

入場料: A席2,500円/一般2,000円/会員1,500円/中・高生700円

第二部 歴史がたり  
「蛇の目と九曜」

【チケットのお求めは】 熊本交通センター、熊日、鶴屋東館B1F、各プレイガイドと  
「語り座」事務局へお申し込みください

企画・脚本・語り: 寿咲亜似 演出: 小西たくま 音楽: 藤川いずみ

加藤清正声: 高杉稔 細川忠興声: 桑路ススム

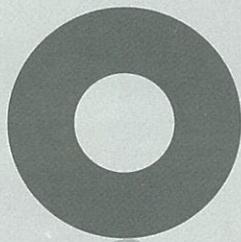
琴: 藤川いずみ バリトン: 春日保人 チェンバロ: 春日万里子

民話塾塾生/小西裕子、橋本順子、福島有季子、向本孝子、山下みき、山元和代

照明: 色川伸 舞台装置: 吉本舞台 音響: サウンド九州

主催: 肥後の歴史物語と民話の会「語り座」

お問い合わせ先  
事務局 洲崎  
090-4998-6531  
096-358-4841

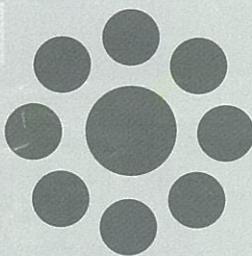


祝!熊本市政令指定都市記念!

# 「語り座」本公演

歴史がたり

## 蛇の目と九曜



語り：寿咲亜似

加藤清正…高杉稔

細川忠興…桑路ススム

音楽：箏……………藤川いずみ

バリトン……………春日保人

チェンバロ……………春日万里子

演出：小西たくま

前座／肥後の民話あれこれ…民話塾塾生による短い話あれこれ  
小西裕子、橋本順子、福島有季子、向本孝子、山下みき、山元和代

第一部 創作民話講談～本邦初公開「あわて者の本妙寺まいり」…寿咲亜似による熊本弁の民話を講談で語る趣向

第二部 歴史がたり「蛇の目と九曜」…加藤清正と細川忠興は、1年違いで生まれ戦国という厳しい時代を生き抜いた同志で、共に世の中を見る目に長けていた。朝鮮出兵、帰国後石田三成との対立、関ヶ原の戦いでも共に東軍についたが、妻に対する言葉は、正反対だった。加藤清正と細川忠興、熊本に関わる二人の戦国武将を対比させながら、清正の妻“かな”と忠興の妻“ガラシヤ”の運命が寿咲亜似の語りで蘇る。

【プロフィール】

### 寿咲亜似(すさきあい)《肥後の歴史物語と民話の会「語り座」代表、語り手》

\*語り手…熊本弁による民話語りから文学作品の朗読まで幅広くかける。2009年肥後の歴史物語と民話の会「語り座」を設立。郷土愛と誇りを育み、先人に学ぶため、各地に纏わる民話と歴史話の脚本を書き語っている。2010年崇城大学市民ホールにて本公演「花桔梗御殿絵巻」清正をめぐる五人の女を催し大好評。会社、地域、学校、などへの出張公演も行っている。≪熊本市人づくり基金助成を受けて東京在住の謙晴彦氏に朗読と演劇、講談師の神田紅氏に講談を学んでいる。

\*放送…熊本シティFMにてH8年から13年に亘りパーソナリティを勤める現在RKKラジオ「清正公さんの国づくり」毎週日曜18:30から放送中 RKKテレビ「新九州遺産」窓をあけて九州～民話で宝探し」出演

\*受賞…ラジオ放送の貢献により「小さな親切」運動 内閣官房長官賞受賞(2008年)

\*民話塾…まるぶん塾 熊本カルチャーセンターにて受講生募集中!



高杉 稔(加藤清正)

東海大学教養学部卒、文学座付属俳優養成所卒、勝アカデミー第一期生、シャンソンを有馬泉氏にカンツォーネを荒井基裕氏に師事、シャンソン勉強会「ラ・ポーム・ド・ラ・シャンソン」主宰、ミュージカル劇団「ミネストローネ」や朗読勉強会を立ち上げる。番組ナレーションもつとめる、「ほたる家」等でライブ活動中。



桑路ススム(細川忠興)

1973年、熊本市生まれ。高校卒業後、東京にて演劇活動する。10年前に帰郷し活動再開、現在フリーの役者。近年の主な出演作品/10年、熊本県芸術文化祭「メランコリーの予感」最上役 11年、劇団市民舞台「偽御伽草子」大童大臣役 TKUドラマ「海の司令官 小西行長」大吉役 創作舞台「青柳」岩木三四郎役など



藤川いずみ(箏)

ソロリサイトを始めオーケストラとの共演や海外でのリサイタル、文化庁巡回公演など箏、新箏(21弦)のソリストとして演奏活動を行う、邦楽創造集団オーラJ団員、「語り座」をはじめオペラ、歌曲、パロック音楽、フラメンコやコンテンポラリーダンス、地唄舞など多様なコラボレーションを展開し、箏の可能性を追求している。



春日保人(バリトン)

東京藝術大学声楽科卒業、同大学院古楽科修了。モンテヴェルディ《オルフェオ》、モーツァルト《フィガロの結婚》各タイトルロール役で出演。パロックオペラに定評がある他、現代作品まで幅広い分野で活躍。プレーシャ国際古楽音楽祭出演など国内外で活躍。



春日万里子(チェンバロ)

東京藝術大学古楽科チェンバロ専攻卒業。同大学大学院修了。チェンバロを鈴木雅明、ルカ・グリエルミ氏に師事。ソナール・カンタンドのメンバーとして、プレーシャ国際古楽音楽祭に出演するなど、ソリスト・通奏低音奏者として活躍。

### ～「語り座」の会へ ご入会お勧め～

肥後の歴史物語と民話の会「語り座」は、熊本の歴史と民話をここで消してはならないとの思いで、2010年7月に設立しました。以来崇城大学市民ホールでの「花桔梗御殿絵巻～清正をめぐる五人の女～」を始め沢山の作品が生まれています。

各地に眠る民話や伝説を掘り起こしてドラマとして語ることによって、自分達の地域を知ることができたと、感動の声が高まっている今、多くの方に この活動を知って戴きたく、是非会へのご入会をお願い致します。公演の際の割引、「語り座メール」他楽しい企画が一杯です。

【会費】個人会員 年会費 一口千円以上  
法人会員 年会費 一口五千円以上

【申し込み先】郵便振込み口座番号【01760-8-121481】へ住所、氏名、電話番号を書いてお申し込みください、又は事務局、洲崎 096-358-4841 へお電話ください。

## 「蛇の目と九曜」事業決算書

## 【収入】

項目	決算額(円)	決算基礎
・熊本県芸術文化振興基金助成金	200,000	
・熊本市舞台芸術助成金	137,900	
・熊本放送文化振興財団助成金	100,000	
・入場料	883,350	
・広告料	816,000	
・自己負担額	100,000	
合計	2,237,400	

## 【支出】

項目	決算額(円)	決算基礎			
・会場使用料	316,100	森都心プラザホール			
・演出	200,000				
・企画脚本	100,000				
・音響	150,000				
・照明	150,000				
・舞台設備	221,050				
・舞台監督	55,420				
・音楽謝礼	250,000	・藤川いずみ、春日保人、春日万里子 ・チェンバロ使用料含む			
・出演料	91,760	4名、司会含む			
・印刷	282,870	・ポスター・チラシ・チケット・プログラム			
・練習会場費	9,920				
・宣伝費	142,030	RKKTV、CityFM、タウンパケット、フリーペーパー			
・衣装代	28,925				
・通信費	86,022				
・交通費	15,900				
・弁当、お茶	87,500				
・事務費	5,236				
・手数料	22,400	チケット販売手数料			
・雑費	22,267				
合計	2,237,400				
収入	2,237,400	支出	2,237,400	差額	0



前座、託麻中放送部と



前座出演の皆さん

4月28日(土)午後2時と6時半の二回、「語り座」本公演、「と九曜」が上演されました。前座は、熊本の民話あれこれ。一部は、寿咲亜似の創作民談で笑いの渦が巻き起こり、二部は加藤清正と細川忠興妻たちの物語です。藤川さ、妙な箏の響きと春日夫妻のチェンバロ、歌声が素晴らしい明色川さん、音響北村さん、本さんと小西さんの演出が、素晴らしい舞台となりました。



第一部民話講談  
あわて者の本妙寺参り



寿咲亜似 笑い話絶好調



第二部蛇の目と九曜



舞台左手は九曜ゾーン  
忠興と玉子



忠興役桑路ススムさん



箏、十七弦、藤川いずみ



春日保人、万里子夫妻チェンバロと笛、東京からの出演



舞台右手は蛇の目ゾーン  
清正と妻かな





関ヶ原前夜



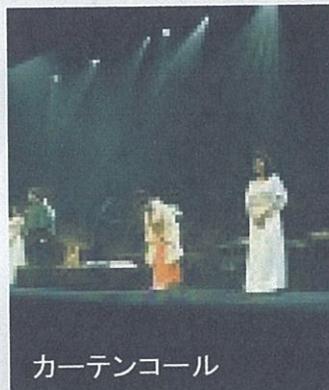
保人さん熱唱



ガラシャ昇天



最後のシーンパッサカリア上のさくら



カーテンコール



出演者全員集合



左から藤川いずみ、春日小西たくま、寿咲亜似、春



蒲島知  
来てT

出演の  
ん、桑  
熱演、  
に集中  
た。公  
760名  
から大  
いて

## 「語り座」本公演お礼とご報告

去る四月二十八日(土)くまもと森都心プラザホールでの「蛇の目と九曜」公演では、厚いご協力を戴きまして誠にありがとうございました。

当日、同じ内容で昼、夜二回、公演致しましたところ、合わせて七百五十人以上の皆様をお迎えし、拍手喝采を頂戴することができました。

平成二十二年七月の崇城大学市民ホールでの「花桔梗御殿絵巻―清正をめぐる五人の女」以来、清和、玉名高瀬蔵、小川町塩屋、菊池能楽堂、荒尾で、歴史物語をその土地の民話と共に語ってきましたが、今回は二年ぶりの、本公演ですから本格的な舞台をご覧頂きたい一心で、小西たくまさんに演出をお願いし、音響、照明、舞台装置、舞台監督とすべて第一線の方々をお願いしました。

音楽は、監修を箏、十七弦の藤川いずみさんをお願いし、そのご縁でバロック音楽の春日保人、万里子夫妻を東京からお招きすることができました。チエンバロ、笛、歌声が箏の音色とよくマッチして物語の世界へ導き、高杉、桑路両氏が演じる清正、忠興の声が和合し、そして寿咲亜似の語りがそこへ溶け込むという世界は、他では決して味わえない、まさに“かな”と“ガラシヤ”に導かれているように思いました。各地でまた是非公演したいものです。

これだけの内容ですから入場料だけではとても賄えないところを 芸術文化振興基金、熊本市舞台芸術助成事業、熊本放送文化振興財団助成事業のご支援と各社、個人の皆様からのご協賛とご協力を戴いたお蔭で無事公演が成功できた事、関係各位の皆様にご心から感謝申し上げます。そしておいで下さった皆様、本当にありがとうございました。

これからも、より良い“語り”を目指して精進して参りますので、今後共にご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

※五月二十三日(水)Rkkテレビ「夕方いちばん」で寿咲亜似の活動が放送されますので、是非ご覧ください。視聴率アップの為、ご協力をお願いします。

平成二十四年五月吉日

肥後の歴史物語と民話の会「語り座」代表 寿咲亜似

役員一同

